

2022.9.30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

○日時：10月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組
《9月のおはなし会は台風接近のため中止》

★「秋のスペシャルおはなし会」

○日時：令和4年10月29日（土） 1回目 10：00～10：30 2回目 10：45～11：15（内容は同じ）
○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○内容：パネルシアターなどによるおはなし会
○対象：小学生（3年生以下）、保護者（1名まで） ○定員：各回6組・20人（先着順。保護者の人数を含める。）
○申込方法：電話・FAX・Eメールなど ○申込締切：10月27日（木） ○参加費：無料

★「第2回学校図書館セミナー」

○日時：令和4年10月20日（木）14：00～16：00（受付13：30～）
○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム Microsoft TeamsによるLive配信あり
○講師：庭井 史絵氏 ○内容：【講義】「情報メディアのベストミックスをめざすこれからの学校図書館」
○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、教育委員会指導主事等
○定員：会場60名 オンライン参加20名（要申込み・先着順）
○申込方法：別紙参加申込書によりFAX、またはEメール。オンライン参加希望者は必ずEメールで申し込むこと。
（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）
○申込締切：令和4年10月12日（水）17時（定員になり次第締め切り） ○参加費：無料
○申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター
（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-5, 6歳から>

『こもり』 アヤ井アキコ/作 福井大/監修 偕成社 2022.7 ¥1500

空を飛ぶ唯一の哺乳類、こもり。街なかに生息するアブラコウモリは、人間が作った建物を利用してねぐらとし、春から秋の夕暮れ時に、川や池の上や街灯のまわりを飛び回る。蚊や蛾などの小さな虫を食べ、超音波でエサである虫の位置や障害物を察知したり、仲間とおしゃべりしたりする。そんな不思議で興味深いこもりたちの生態と暮らしをわかりやすく可愛らしく描いた絵本。

『ナマコのばあちゃん』 こしだミカ/さく 偕成社 2022.9 ¥1400

大きな海のはしっこでナマコのばあちゃんは、のんきに暮らしていた。でもある日、海の水がでんぐりがえって陸のものを海の中へひきずりこんだ。ばあちゃんは、めちやくちゃになった海の中で、身のまわりに流れてきたものを猛烈な勢いで食べはじめた。食べて、出して、食べて、出して…。ナマコの生態を描くとともに、環境についても考えるきっかけとなる絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『バスが来ましたよ』 由美村糖々/文 松本春野/絵 アリス館 2022.6 ¥1400

病気で全盲になった山崎さんはバス通勤で仕事を続ける決心をする。不安な気持ちでバスを待っていたある日のこと、「バスが来ましたよ」という小さなかわいい声。そして腰のあたりにそえられた小さな手。その日から小学3年生のさきちゃんと山崎さんの優しく温かい交流が始まる。さきちゃんが卒業してからもそのバトンは妹たちへと受け継がれていく。実話をもとにした絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『うちのおかあちゃん』 小手鞠るい/作 ことしだミカ/絵 偕成社 2022.8 ¥1300

うちのお母ちゃんは、三味線をひくのがうまい。目はわるいが耳がしいし頭もいい。たくましい。ひとりでどこへでも出かけていく。ユーモアがありいつも惜まれ口をたたく。目が全く見えなくなった日、お母ちゃんは悔しくて泣いた。でも「こうなったら日本一のヘレン・ケラーになっちゃうで。」と。作者が自身の母のことを岡山弁で語る。ダイナミックで優しい絵に心をつかまれる。

『はだしであるく』 村中季衣/文 石川えりこ/絵 あすなろ書房 2022.7 ¥1500

畑のスイカをつついたカラスを追って、いつのまにやらはだしになっちゃった。足のうらに土の感触がぐにやり。葉っぱのうぶ毛がちくちく。そのまま畑の外へ飛び出した私。アスファルトの上を歩くと、ちっこい石が足のうらにいくいくあたる。アスファルトの道路はびっくりするほどあつい。足のうらで感じる生の感覚をよびおこされ、気づかされる絵本。ダイナミックな絵も魅力。

<絵本-中学生から>

『素敵な空が見えるよ、明日もきっと』 リト@葉っぱ切り絵/著 講談社 2022.8 ¥1600

自身の特性に悩みながらも、独学で生み出した葉っぱ切り絵の投稿写真が多くの人に支持されているリト。テレビ出演や展示会も増えているが、毎日の創作と投稿は継続中。全ての作品に小さな森の仲間たちの心温まる物語が描かれている。本書は3冊目となる作品集で、78の物語を7つのテーマに分けて収録。どのページにも少し前向きになれるようなメッセージが込められた1冊。

<読み物-小学校低学年から>

『じゅんくんの学校』 福田隆浩/文 ささめやゆき/絵 あすなろ書房 2022.6 ¥1300

小学2年生のじゅんくんが通っているのは、「とくべつしえん学校」。くつをはくこと、走ること、マスクをすること…。苦手な

ことはたくさんあるけれど、一つ一つ、家族や先生と一緒に向き合っていく。特別支援学校で教師を続けながら、児童文学作家としても活躍する筆者が、周囲の支援を支えに過ごしている子の日常や心情を描く。できるようになったことを応援したくなる物語。

<読み物—小学校中学年から>

『おもちゃ屋のねこ』 リンダ・ニューベリー/作 田中薫子/訳 くらはしれい/絵 徳間書店 2022.5 ¥1500

ハティはいつも学校帰りにテオおじさんが開くおもちゃ屋のお手伝いをしている女の子。ある火曜日、ショーウィンドウの中できれいなねこが眠っていた。緑色の目でべっこう色の毛並みのかしこそうなねこ。ハティは、ねこにクルリンと名付けテオおじさんと可愛がる。クルリンがいるとお客さんが増えて…。イギリスで数々の賞を受賞し高い評価を受ける作者が贈る心あたたまるお話。

<読み物—小学校高学年から>

『水まきジイサンと図書館の王女さま』 丸山正樹/作 高杉千明/絵 偕成社 2022.7 ¥1000

小学4年生の美和はある理由から幼馴染の英知と手話で会話する。土しかない花壇に水をまくおじいさん。あちこちで嘔吐する猫たち。図書館で大切なしおりを失くした女性。英知と不可解な出来事の謎に迫る。作者はシナリオライターとして活躍後、松本清張賞に応募した『デフ・ヴォイス』で、作家デビュー。本作はそのスピノフで、作者にとって初めての児童書。

『5番レーン』 ウンソホル/作ノインギョン/絵 すんみ/訳 鈴木出版 2022.6 ¥1600

カン・ナルは漢江（ハンガン）小学校水泳部エースで小学6年生の女の子。しかし最近では他校のライバルキム・ヒョンヒに負け続けていた。姉のポドウルが競泳をやめて種目を変えたことに納得がいかず、キムに勝てないことで苦しんでいたナル。ついにある事件をおこしてしまい…。葛藤の中で成長する女の子の物語。筆者は韓国在住。本作品で、第21回トンネ児童文学賞大賞を受賞。

<読み物—中学生から>

『パンに書かれた言葉』 朽木祥/著 小学館 2022.6 ¥1400

イタリア人を母に、日本人を父に生まれ、3つの名前を持っている光・S・エレオノーラ（エレオノーラはイタリア語で光という意味）。鎌倉在住の光は、2011年の震災後、母の故郷北イタリアに滞在し、Sという名前に入れられた意味を知ること。帰国後、中2の夏休み、父の実家広島で過ごすうちに、祖父母たちの想いにつれ…。戦禍を生き延びた人々の心の傷を知る物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『「じぶん」のはなし』 ようろうたけし/さく よこやまかんだ/え 講談社 2022.6 ¥1600

ようろうせんせいと子ども達がたんけんに出発。たんけんの中で自然の中で生きている自分に気づく。あらゆる生き物や豊かな自然とのかかわりについて考えるきっかけとなる絵本。筆者の養老孟司は、東京大学名誉教授等歴任。著書多数。筆者自身も虫好きで、現在も世界各地へ昆虫採集に出かけ標本を作る。見返しには、本書に出てくる生き物たちをイラストと名前で紹介。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『すごいゴミのはなし』 滝沢秀一/文 スケラッコ・萩原まお/イラスト 学研プラス 2022.7 ¥1300

海辺のゴミ、煙をあげるゴミの山、まだ使えるもの食べられるものが入ったゴミ袋、あと20数年でいっぱいになる最終処分場。今、ゴミをめぐる課題は山積みとなっている。現役ゴミ清掃員で、お笑い芸人でもある筆者が、ゴミについて、分かりやすく楽しく紹介する。ゴミ清掃員あるある劇場やゴミごぼれ話などコラムを多数掲載。本の帯やカバーにはリサイクル紙を使用。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『ウン小話世界一たのしくてまじめでちょっとクサイ授業』 湯澤規子/文 金井真紀/絵 ホーム社 2022.6 ¥1200

4年2組の新しい先生は、もじゃもじゃ頭の大作先生。クラスの目標を「ウンコを知る、おもしろがる、考える」にしてしまう。授業中でも給食中でもウンコの話をする先生。世界のトイレやウンコの祭りなど、ウンコについてストーリー形式で紹介する。歴史地理学、農業士を専門とする著者が、「便」を通していろいろな国の文化や面白さについて綴る。環境について考える一冊。

『「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと』 指田和/著 ポプラ社 2022.7 ¥1600

2019年7月に発行された写真絵本『広島消えたかぞく』は、広島に実在し原爆で命を落とした鈴木六郎さん一家が描かれていた。本書は、絵本作成のきっかけや作成過程、完成後も続けた取材について綴る。原子爆弾が投下された後の町や人々の様子について、平和記念資料館の資料や、六郎さんの甥の恒明さん、絵本を出版したことでつながった人達の記憶や遺品でたどる。

<ノンフィクション—中学生から>

『三角関数 角度と長さを操る現代必須の数学』 ニュートン編集部/編著 ニュートンプレス 2022.6 ¥1345

数学で使う2種類の三角定規、すべての図形は三角形に分けられること等、日常生活の中でも三角形が利用されている場面は多い。身近な図形、三角形と古代から私たちの生活を支えている三角関数を、カラフルな図や写真をふんだんに使ってわかりやすく解説。科学雑誌ニュートンから生まれたジュニア向けながら、最先端の科学がわかる「14歳からのニュートン超絵解本」シリーズ。

<研究書>

『かこさとし科学絵本の世界』 藤嶋昭/著 学研プラス 2022.8 ¥1800

著者は、世界で初めて光触媒を発見した科学者であり、生前のかこさとしと共に仕事をしたこともある。かこさとしの「科学の感動を伝えたい」という思いに共鳴し、本書では、かこさとしの科学絵本から38冊を選び、言葉や絵での伝え方の工夫を分析。1冊の絵本を完成させるまでに、試行錯誤を繰り返し、わかりやすく正確な図版になるように苦心された様子が伝わってくる。

『ワンダーランドに卒業はない』 中島京子/著 世界思想社 2022.8 ¥1600

作家・中島京子が、子ども時代に読んできた数多くの作品の中から、大人になった今でも子どもの時間を思い出させてくれる18の物語を紹介。いくつかの邦訳のある作品は特に思い入れの強い訳者の本を挙げたり、シリーズ内作品を比較したりと、それぞれの作品の思い出を自由に述べた紹介文で、空想や異世界への旅を楽しんだ子ども時代に帰ってみたいくなる1冊。こどもみらい叢書。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

